

## 巨大地震と富士山噴火はいつくるか

ボクの友人は東北大学の地球物理学科卒業の専門家である。で、地震や火山活動について、いつ起こるか、どこに起こるかなどと質問するのだが、明確な答えが還ってきたことがない。しかし、琉球大学の木村政昭助教授（現名誉教授）の提唱することについては2人とも信用しきっている。

奥尻島沖地震（このときは津波の被害が大きかった）、阪神大震災、新潟中越沖地震、御嶽山の爆発、三陸沖地震と津波（このとき、当初は M9.2 と推定していたという）など、予測してきた地震や火山活動については、ほぼ完璧に近く当たっている。

この人のオリジナルの理論は、「地震の目」と「火山噴火と地震の時・空関係」である。2015年の小笠原諸島西側の大地震もすでに指摘されている。つまりは、地震は地震、火山は火山屋というような固い頭ではないということである。

しかし、この人の偉いところは、民間の地震雲とか井戸水との関係とか、巷間言われている（事実かどうかは別にして）事柄などについて、頭から否定しないことである。……小生がまだ学生の頃、新聞の連載で、「地震は地中で発生するものだから、空気中に光が走ったり、水蒸気（雲のこと）がのぼっていくことなどありえない！」と一刀両断に切り捨てていた学者と称するのがいたのも事実である。しかし、まともな頭で考えて、あるいは報告を信じて、新田次郎さんが、「昔から大地震の際に閃光や稲光りを見た、という報告は多い」と書いておられるように、詳しいメカニズムもわかっていないのに、初めから「そんなもん、あるはずがない」などという態度は間違っている。

富士山噴火で30数年前にはしゃいだ馬鹿者がいて、なぜかこれを信用する連中がいて、富士五湖あたりの旅館のキャンセルが相次いで、大きな損害をだしたことがある。この「理論」ともいえない与太話で踊った人も恥ずべきだろう。結局は何も起こらず、満天下に恥を曝しただけのことで、狼少年のようなものだな。

木村先生の著書から一部引用する。

……富士山における噴火の目が立ち上がったのは、1970年代後半頃と把握している。地震の場合、地震の目が立ち上がってから30年後±3年で本震となるが、火山噴火の場合、マグマの動きが関係するため経験則からいえば、これに5年を

加算する。(中略)・・・そういった計算を元に、私は富士山噴火は遅くとも 2020 年までに起こると試算してきたのだ。

世界中の古今の大地震、火山噴火を網羅し、そこから一定の傾向を掴むものである。東日本地震は、貞観地震と酷似しており、三陸沖を震源とする大地震と富士山噴火は密接な関係にあるようで、富士山噴火から 5 年後に大地震が発生している。その他、三陸沖地震との関連はいくつかあり、かなり信憑性が高い。

その他、雲仙普賢岳の火山活動は落ち着いているが地震との関連は残っている。この中に阪神大震災や台湾での大地震、鳥取西部地震なども関連しているとし、阪神大震災後雲仙の火山活動は急速に収束していく。

阿蘇山でも、2014 年 11 月にマグマ噴火したが、1975 年に噴火の目が立ち上がっていることから  $1975 + 30 \pm 3 = 2010$  年  $\pm 3$  年ごろ噴火してもおかしくないと予測されている。

霧島連山は、2011 年 1 月新燃岳が噴火。これに関連して地震の目が形成され、2020 年  $\pm 5$  年に志布志湾沖種子島東方で M7.0+ (註 ; 7.0 以上のこと) の地震を警戒している。桜島でも日向沖地震を警戒。

三宅島、三原山、伊豆大島とくれば、次は富士山だろう。

九州の火山噴火が、西日本や北海道の地震と関連があると考えると、北海道での火山噴火や大地震が、カムチャツカ地震と関連してくるのは当然だろう。

これに関連して、スマトラ沖の M9 の地震や火山活動も含め、それこそ地球規模の地殻変動が全て関与してくる、という説も納得できるであろう。

そういう面からみて、2011 年 3 月の東日本大地震は、画期的なものになる。

一転、東南海地震は起こらないだろう、との観測も「今までみられた地震の目が消えている」という表現も含めると興味深いものがある。

ネッ、納得できるでしょ！ ここから、富士山噴火は、どうも 2 年以内におこるのではないかと、とはボクの印象である。

2015.12.31.